

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <岩手県 麺類 >  
ゴールデンウィークに向け、お土産品の売上増加に期待して生産調整を行っているが、観光地以外の売上は依然減少している。当面は値上げの影響で売上の増加は見込めない状況である。
2. <宮城県 酒造 >  
4月は3年ぶりの歓送迎会等の開催、新型コロナに関する制限が解除された花見シーズンとなったことで、日本酒需要の回復が期待されたが、前月比及び前年同月比ともに伸びはみられなかった。
3. <福岡県 パン・菓子 >  
人手不足と原材料の価格上昇、更に卵の流通が一部滞る等、菓子製造業には厳しい状況が続いている。観光地などは活況であるようだが土産品の菓子を製造するにも思うにままならないメーカーも出ている。
4. <山口県 パン・菓子 >  
4月から販売価格を8%値上げしたが、原材料の値上げの要請が続き収益が上がらない。メーカーによる卵を使用した加工品の出荷制限をしているため、一部の製品の内容変更や製造中止を行った。
5. <千葉県 水産食料品 >  
世界的に海産物に対するニーズが高まっているが、国内は高齢化や担い手不足等が問題となっており、組合員の脱退が増える見込み。組合では、外国人技能実習生のトラブル対応や対策の強化を行っている。
6. <東京都 カレー粉 >  
外食需要が回復傾向にあり、業務用の製品を取り扱う企業は回復基調にある。原材料の価格上昇を受けて価格転嫁しているものの、コスト上昇分を吸収するには至らず、収益は減少している。

#### 繊維・同製品製造業

7. <群馬県 織物 >  
ゆかた関連は、祭りや花火大会の再開により動き出すと予想されるも、流通在庫が重荷となり生産の回復は見込薄。和装の絹商品は、商戦が活発化することを見越した流通側の動きが積極的になっている。
8. <岐阜県 婦人子供服 >  
昨年と比べると、売上は10%～20%伸びた。ただ、原価が値上がりしている一方で、値引販売の割合が増えているため、収益は厳しい。雇用調整助成金が終了してからの動向が不安である。
9. <岐阜県 縫製・既製服 >  
インバウンド需要の回復により、市場の動きは活発化しているものの、消費者意識の変化で「売れるもの・売れないもの」が顕著となり、トレンドをつかみきれないメーカーはより苦戦を強いられている。
10. <石川県 ねん糸等 >  
4月から電気代が値上げされたため、収益は悪化している。新型コロナの影響は組合員の廃業を加速させており、事業者数が激減し新規就業者も望めない業界において組合の存続が危うい状態になりつつある。
11. <京都府 染織整理 >  
京友禅生産を支える各工程を担う事業所が廃業等により減少してきており、仕入れ先等の確保が難しい。需要が回復しても、それに応えられない状況になってきている。
12. <三重県 衣料縫製 >  
諸物価の値上がりにつき、全ての物の値段が上昇した。電気料金は2倍以上になり、ガソリン、ミシン部品系とともに経営を悪化させている。その上、人件費の上昇もあり、工場としては厳しい。

#### 木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材 >  
新設住宅着工戸数は昨年同期と比較して大幅に増加したが、製材品の動きは鈍い状況にあり、製材品価格も下がりはじめています。今後、建築資材の高騰、金利の上昇などが住宅着工へ及ぼす影響が懸念される。
14. <島根県 製材 >  
原木価格、製材品価格ともにエネルギー価格の高騰に係る価格転嫁は難しい状況。また、リフォーム需要は安定しているようだが、新規住宅着工戸数が昨年同月比減少していることから影響が出つつある。
15. <佐賀県 家具 >  
家具業界では二極化しているような状況が続いている。法人向けの取引が強い事業所では順調な売上回復が見られるものの、個人消費に至っては先月と同様に厳しい状況である。

16. <兵庫県 木材・木製品 >  
 建築現場の進捗が悪く、プレカット工場の稼働率も低下している。輸入木材が価格を下げており、国産材製品の価格にも影響が出ている。販売価格の低下により各社、採算性が悪化している。
17. <鹿児島県 木材・木製品 >  
 原木丸太・製材製品の取扱量・取扱額ともに前年比で大幅に下落し、厳しい年度明けとなった。価格が下落しても需要は伸びず、様子見の当用買いに徹している実状であり、当分は需給とも先行き不透明。
18. <東京都 建具 >  
 資材高騰が断続的に続いており、景況はあまり芳しくない。加えて年度当初は仕事量が少なく、先行きの受注量も少ない見込み。さらに建築現場は人手不足となっており、工事の遅れも発生している。

## 紙・紙加工品製造業

19. <岐阜県 機械すき和紙 >  
 ユーザー各社からの受注数量が減少している。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、売上高・在庫数量は春先で減少したが、販売価格は上昇した。景況は先が見通せず、先月に比して悪化となっている。
20. <茨城県 段ボール >  
 去年より全体的に生産量が5~10%ダウンしている。海外から旅行客が入ってきているので、観光地は人が多く色々な物が消費されているように思う。ゴールデンウィーク明けにもう少し物が動き出してほしい。
21. <愛知県 段ボール >  
 全段連の情報によると令和5年3月の生産実績速報は前年同月比97.1%で令和4年10月から6ヶ月連続マイナスであった。全体の段ボール生産は、主力の加工食品関係が低迷したことで前年を下回ると推測される。
22. <愛知県 紙器、段ボール >  
 GW期間を控えて期待された土産物向け製品が不振である。ガソリン代、宿泊代、食事代等全てが値上がりしているため土産物を節約する傾向が強いの原因ではないかと言われている。
23. <北海道 加工紙 >  
 観光客の入り込みから、一見回復傾向にあるかにみえるが、様々な物の値上げや人手不足など、楽観視できる状況ではない。製品単価を上げた先では買い控えが起きている。
24. <東京都 紙製品 >  
 原材料、電気代、段ボール代、物流費などが高騰しているが、諸経費の価格転嫁がスムーズにできていない。文具業界では、欠品に対して、問屋から補償請求されるメーカーもあり、厳しい状況が続いている。

## 印刷

25. <宮城県 印刷・同関連 >  
 中長期的には、後継者不足や印刷需要の減少等により、廃業や倒産増加を懸念している。また、ChatGPTについてはデザインも含め業界内での今後の影響は不可避であり、動向を注視している。
26. <栃木県 印刷 >  
 全体的に景況感は持ち直しており、印刷価格が上昇に転じているが、材料費・光熱費のコスト上昇も継続していることから、その他の課題解決へシフトしていかなければならない状況だ。
27. <長野県 印刷 >  
 上場企業が賃上げの状況下、中小企業では価格転嫁が十分ではない状況により、当然のごとく賃上げどころではない状況。今後、大手企業への人材の流出も懸念される。
28. <兵庫県 印刷・同関連 >  
 売上は昨年よりも良さそうだが、仕事の戻りというよりは資材高騰の影響が大きいように思われる。また4月初旬までは統一地方選関係で上向いたが、5月はその後の谷をどう埋めていくかが課題。
29. <徳島県 印刷 >  
 用紙の値上げ資材の値上げが少し浸透したおかげで売上げは増えたが、その他の経費の増加分のため、利益は増加していなかったようだ。先行きを考えると頭が痛い問題である。
30. <長崎県 印刷 >  
 前年同月比において売上高は増加、収益状況及び資金繰りは共に変化なし。売上高は若干の増加傾向が見られるが、原材料費及び光熱費の高騰の影響は大きく、厳しい業況には変わりがない。

## 化学・ゴム

31. <岐阜県 プラスチック製品 >  
 朗報として電力費、中部電力による特別高圧電力単価の減額、再生エネルギーが5月より2円/kWh値下がりする。
32. <奈良県 プラスチック製品 >  
 受注量や売上高は増加しているものの、エネルギーコストと原材料等の高騰が依然として続いており、黒字幅が減少している。一部の自社ブランド製品を除き物価上昇分を製品価格に転嫁できていない状況。

33. < 広島県 プラスチック製品 >  
 原材料・電気代等の高騰分を価格転嫁できず、事業採算を大きく圧迫している。また、自動車関連は、少し回復傾向がみられるが、変動幅が大きく不透明感が強い。
34. < 愛知県 高圧ガス >  
 荷動きに大きな変動はないが、エネルギーコスト上昇に伴う輸送費増加が収益悪化の要因となっている。トヨタ自動車のEV車増産への移行も不安材料である。
35. < 兵庫県 ゴム製品 >  
 一部のメーカーでは強い動きが確認されるものの、全体的には弱い動きに終始。市場全体を引っ張るような売れ筋・ヒット商品も出ないことから、停滞気味に感じる。
36. < 東京都 ゴム製品 >  
 自動車関連の景況が良くない。販売価格が上がっているため、売上高は前年と大きく変わらないが、出荷数量は減少。経費も値上がりし収益を大幅に圧迫しており、賃金を上げられる状況ではないのが現実。

### **窯業・土石製品製造業**

37. < 富山県 骨材・石工品等 >  
 製造原価の急激な増大に加えて、電気料金や燃料費、各種設備消耗品等様々な費用が急激に高騰し、企業努力では対応できない状況となっているため、骨材販売価格について2年連続の値上げを実施している。
38. < 宮崎県 窯業・土石製品 >  
 昨年度からの持ち越し物件もあり、4月単月で昨年比127%の出荷増となった。大型打設となると人手不足の影響もあり、組合員同士で助け合って出荷することが多くなった。
39. < 山形県 コンクリート製品 >  
 新年度の設計単価が概ね7～10%程度アップしたものの、官公庁の設計価格と原材料価格の上昇が連動しないため、一部の製品は原価を割る価格で納入せざるを得ない状況が生じている。
40. < 兵庫県 窯業・土石製品 >  
 販売数量の変動は見られないが、電気や燃料の高騰と輸送費の値上がりなどで収益性の低下が窺える。企業努力による利益確保が難しくなっており、価格転嫁せざるを得ない状況である。
41. < 山口県 石工品 >  
 従業員をたくさん抱えている事業所が必要以上に仕事を取るため、同業者の仕事の激減を招いており、今後の方向性を再度考える時期にきていると感じている。
42. < 沖縄県 ガラス製品 >  
 4月に入り、平日は台湾や韓国からのインバウンドが目立つようになり、春休みとGWは国内観光客で賑わった。売上は前年比50%以上の増加、コロナ前と比べてもほぼ同水準までに回復した。

### **鉄鋼・金属製造業**

43. < 富山県 建築用金属製品 >  
 業界の景気は好転しているものの、製品材料の入荷が不安定なことや材料費が高騰していること、溶接作業による電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高騰による賃上げ等、課題が山積している状況にある。
44. < 京都府 金属プレス製品 >  
 試作関係を中心として受注は戻りかけていたが、4月に入りまた落ち込んだようだ。自動車関連では、生産調整がやや緩み受注は少しずつ戻り始めているが、まだ暫くは厳しい状況が続くものと考えられる。
45. < 埼玉県 鉄鋼・金属 >  
 鋼材の相場価格は一服感がある。中国材が自国内でだぶついており近隣国に流れているため、日本国内でも建築向け鋼材を中心に価格は弱含みとなってきた。
46. < 熊本県 鉄鋼・金属 >  
 TSMCの進出に伴う地場企業の経営上の影響としては、今のところ原材料の高騰や人材不足の面でプラス要因が見られず、マイナス要因の方が強い状況となっている。
47. < 徳島県 ステンレス >  
 国内外ともに大手企業を中心に活発化してきている一方、中小企業は多少の改善は見受けられるが、電力費の高騰や物価上昇に伴うコストUP、供給面での制限による納期遅れなど引き続き影響が懸念される。
48. < 東京都 ボルト・ねじ等 >  
 半導体不足は解消しつつあるものの、自動車メーカー向けの売上は減少している。部品メーカーは本体メーカーの景況に左右されるため、悪化の傾向にある。

### **一般機器製造業**

49. < 富山県 金属工作機械 >  
 受注状況は全体的には横ばいだが、内容的には、軸受・油圧関係の落ち込みをロボット・工作機械でカバーし、横ばいを維持している。自動車関係の減産問題もあり、今後の見通しは厳しいと見込まれる。

50. <山梨県 業務用機械器具 >  
前年同月と比べ売上げは▲20%、収益状況は▲18%となった。自動車関連・製造機器などあらゆる分野の受注量が大きく減少しており、しばらくは厳しい状況が続くことを予測している。
51. <愛知県 めっき >  
自動車の生産調整についてはあまり聞かなくなったが、生産量は芳しく無く、全体として厳しい状況が続いている。最低限の価格転嫁を認められた話も聞くが、売上の的には前年と変わらない組合員が多い。
52. <三重県 一般機器 >  
部品不足、モノ不足が解消し半導体不足も改善されてきたが、需要は減少し注文も減少してきた。海外進出している自動車関連は良くなっているが国内の落ち込みは大きく、設備投資も抑えられている。
53. <福井県 機械工業 >  
原材料価格や電力料金の高止まり感は変わらず、売上も減少している企業もあり収益状況は不変と言える。省エネ設備投資や人手不足に対応する省人化・省力化投資を検討している。
54. <大阪府 印刷製本機械 >  
全てのコストが上昇しているが、それを完全に商品価格の上昇でカバーはできていない。5月に大阪で展示会を開催するがそれを契機にしてみたいところである。

### 電気機器製造業

55. <群馬県 電気機械器具 >  
部品不足は解消しつつあり、案件が動き出し、生産は正常化に向かう。
56. <広島県 電気機械器具 >  
売上は前月比+30%、前年同月比+20%となった。年初来からの生産増に係わる納品の増加が売り上げを押し上げた。今後は、世界経済の停滞と共に、減産傾向になっていくとの見方が出ている。
57. <福島県 電子部品 >  
数%の値上げを発注側が受け入れてくれたので、販売価格は上がったが、資金繰りは良化していないのが現状。5月以降に輸出用自動車関連部品の製造が、増加傾向にあるので期待したい。
58. <長野県 電子機械器具 >  
人材不足の状態が続き、原材料の高騰も継続している。自動車産業関連の急速なEVへの展開が見受けられる。また、優秀な人材の流出があり、課題となっている。
59. <静岡県 電気機械器具 >  
大型冷蔵庫は販売減少に伴い生産も減少しているが、家庭用エアコンは部材調達問題はほぼ解消して需要シーズンに向けて生産は増加している。業務用エアコンは国内・海外向け共に堅調に推移している。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス >  
4月の国内自動車販売台数は、前年同月比16.7%増と8ヵ月連続で前年比増加した。前年同月の実績が低かった反動増の影響もあり、今後の市場動向は不透明である。

### 輸送用機器製造業

61. <群馬県 輸送用機械器具 >  
自動車の生産数は回復基調にあるが、前年対比では横ばいであり、下請企業の売上は不変。また、部品供給問題は改善されつつある。
62. <愛知県 輸送機器 >  
自動車部品の生産量は車種による繁閑の影響が出ている。工作機械等機械部品は引き続き高水準で推移している。
63. <愛媛県 造船 >  
慢性的な人手不足が続く中、外国人労働者の雇用に積極的な組合員が増えている。特定技能での受入れ希望が増えており、技能実習から特定技能への移行手続きも増加している。
64. <静岡県 輸送用機械器具 >  
全体的には受注量が増えているが、半導体関連部品の調達が安定しておらず生産調整への影響は企業ごとにバラツキが出ている。先々の見通しは不透明な中で、人材確保が共通の課題となっている。
65. <兵庫県 輸送用機械器具 >  
4月までの売上は今年一番の売上高となっている。主要取引先の船舶部門、機械部門とも昨年よりは操業度が上がっているよう期待はしているが、先行き不透明感は否めない。
66. <山口県 鉄道車輛・同部品 >  
鉄道車両関係は現状は順調に推移しているが、2024年度から受注量は減少となる見通し。半導体製造装置の部品製造業では、当初予定よりも大幅に受注量も減少してきており、今後の受注動向を注視したい。

## その他の製造業

67. < 和歌山県 なめし皮・同製品・毛皮 >  
4月の受注状況は期待通りにはならなかったが、全体的に見てやや良い方向に向かっているように見える。5月下旬の展示会それに続くメーカーと問屋の個展の後が楽しみである。
68. < 石川県 漆器 >  
インバウンド客が見受けられるようになってきたが、コロナ禍前の状況には人数も売上もまだまだ届かない状況。生産の方においても原材料などの高騰が続き、価格転嫁がすぐにはできない状況。
69. < 愛知県 アウトソーシング >  
自動車生産においては、部品供給不足や半導体不足の問題が解消され生産調整の稼働停止がなくなる来月以降は忙しくなると予想するが、そのための人材確保が必要となり対応できるかが心配である。
70. < 香川県 綿寝具 >  
4月の業況は昨年同月と比べてほぼ同じだった。月の前半は少し売上が良かったが、だんだん低下した。同業他社の中で製造部門を廃止して小売専門に転化してしまう企業があった。
71. < 神奈川県 工業中心の複合業種 >  
半導体関連の動きが活発化しているが納品に時間がかかっている。原油、原材料の高騰が顕著であるが価格転嫁の遅れにより収益改善は進んでいない。
72. < 福岡県 畳等生活雑貨品 >  
コロナ解禁によりアウトドアの消費者が増え、ほぼ例年と変わらない受注だった。ただし、この先の見通しがわからない状況で、この先の状況を危惧・注視している。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <富山県 セメント >  
燃料や原材料価格の高騰、業界の人手不足など、様々な要因で建設意欲が失われていたが、各値上げへの抵抗感が薄らいだことで価格転嫁が進み、受注の採算は底入れの兆しが見えてきている。
74. <京都府 機械器具 >  
半導体不足からの、もの不足、生産の遅れのため、納期がかつてない規模の遅れとなっている。また、納期遅れの品目もかつてない幅の広さとなっている。
75. <広島県 総合 >  
旅行、外食などのサービス消費に関連する事業者の売上は回復傾向。一方で為替円安、原材料高などを背景に住宅や家具等耐久消費財に関連する需要は前年に対して減少している。
76. <愛知県 工業用ゴム >  
半導体製造装置メーカー等、大手ユーザーの稼働が落ちてきており、販売状況には悪影響。まだまだ、自動車関係の生産が以前の生産数に戻ってない為、経営の厳しさは続く。
77. <宮城県 繊維製品 >  
春物衣類は気温上昇につれ、昨年より上昇。連休に向け夏物が少しずつ動いている。観光地の売店や宿泊施設の動きも、インバウンド再開とともに戻ってきた。
78. <大阪府 衣服・身の回品 >  
諸物価高騰が収まらず、収支環境は依然厳しい状況が続く。組合員の一部には、売上が増加に転じる先もあるが限定的。収益面においてはエネルギー関連の高騰を背景に仕入原価に影響している。

### 小売業

79. <青森県 家電 >  
白物家電やエアコンなどは昨年度の不調もあるが、前年比を超えて推移しているようだ。電気代高騰により、節電家電への意識が高まり、問い合わせや販売につながる傾向が多いように思われる。
80. <山形県 各種商品 >  
売上高、客数とも前年比約10%減という状況であり、コロナ禍からの回復傾向の中で歓迎会や行事が戻りつつあるので期待していたが思うような結果には結びつかなかった。
81. <新潟県 化粧品 >  
新型コロナウイルス感染症の影響が弱くなってきたため、来店数が戻りつつある。しかし、購買点数、単価が落ちている。化粧習慣が戻るのに、まだまだ時間がかかりそう。
82. <宮城県 家電 >  
電気料金高騰を背景としたエアコンや冷蔵庫など、省エネ性の高い商品の問い合わせに対応している。また、給湯分野での省エネ機器として、ヒートポンプ給湯機「エコキュート」に注目が集まっている。
83. <福島県 共同店舗 >  
新生活需要はあるが、昨年の実績はコロナ禍で物販、飲食とも低迷していたため、昨年との単純比較では喜べない。来月、行動制限のないGWの帰省客の需要に期待したい。
84. <大阪府 二輪自動車 >  
4月は需要期にも関わらず引き合いが弱いですが、昨年秋に発注した新車が入荷してきているので、在庫過多となっている。その為に資金繰りも悪化している。

### 商店街

85. <鳥取県 商店街 >  
光熱費などをはじめとするコストの上昇により景況は厳しい。生活におけるコストの上昇が心理的に与える影響が大きく、一段と消費意欲が減退している。消費が再開しつつある今、支援の拡充を望む。
86. <埼玉県 商店街 >  
商店街に以前からある古い店舗では、店主の高齢化による世代交代が進んでいる。一方、チェーン店の業態転換が一部でみられ、昨今の人手不足による働き手の確保及び魅力あるテナントの出店が求められる。
87. <大分県 商店街 >  
コロナが5類になる直前で旅行者も増え、人々の動きがあつたが、以前と購買量は変わらない感触。行政とのイベント連携で人出はあるものの、全体の人口減はカバーできず、日常の人出は厳しい。

88. <愛知県 商店街 >  
 中心市街地の商店街では、3月に閉店した店舗が数件あったが、4月に入り入店希望者の問い合わせが多く、空き店舗活用支援補助金制度等も活用することで商店街の運営維持期待が持てそうだ。
89. <香川県 商店街 >  
 新型コロナの規制緩和で、消費にも好影響の雰囲気を感じる。一方で、全てのものの値上がりで、余計なものにはカネを使わないという「メリハリ消費」が顕著で、物販の商店は厳しい環境にあると思う。
90. <高知県 商店街 >  
 飲食店等に活気が戻ってきた。県外ナンバーの車も多い。レンタル自転車の観光客も見かける。アジア系外国人客は家族連れが多いようだ。

## サービス業

91. <山形県 美容 >  
 人の動きは大分活発になってきており、それに伴い美容室の利用者も戻ってきている。ただ、原材料費や光熱水費による経営への圧迫は依然として続いており、この先への不安感がどうしようもない。
92. <島根県 ホテル >  
 全国旅行支援によりお客様のご利用は増えている。4月末の連休も全国旅行支援が無くても高稼働になっており、旅行をしたい欲求が爆発しているように思う。飲食はほぼ通常に戻り、賑わいが戻りつつある。
93. <神奈川県 情報サービス >  
 前年同月と比べ、5G関連の開発が縮小。今後の開発に備えて体制維持を継続した結果、収益状況が悪化した。単価アップ交渉の結果は、OKとNGとでマチマチであった。賃上げ（ベア）に関しては、継続検討中。
94. <秋田県 旅行 >  
 旅行の取扱額は、前年同月比で129.9%、コロナ禍前の2019年4月比で157.8%と上昇も、全国旅行支援の手続が繁忙となり、社員の残業代や休日出勤等が発生し、収益が伴っていない。
95. <福井県 その他 >  
 コロナ禍前までは戻っていないが、人の動きが活発になっている。6人以上の大人数の来店客が増えている。一方、材料の値上がりはとどまっておらず、販売価格を値上げしても追いついていない状況である。
96. <鹿児島県 旅館, その他の宿泊所 >  
 全国的に客足は好調で、150%以上の前年比となっており、景況は明らかに好転している。夏季に向け、受け入れ体制を整えていきたいが、物価高による費用増に苦しんでいる。

## 建設業

97. <群馬県 一般土木建築 >  
 人材確保に取り組むも入職者は少なく、従業員の高齢化が進む。また、後継者問題に直面する企業が増えている。
98. <京都府 一般土木建築 >  
 経済活動は徐々に活発になりつつあるが、物価高等のコスト上昇分を価格に転嫁できていない。加えて、人手不足も続いているため工期がずれ込む等、経営に苦慮している。
99. <京都府 職別工事 >  
 工事量的には減少しているが、職人の高齢化や廃業による減少等により工事バランスはある程度保たれている。若年技能者は僅かな伸びにとどまっているため、更なる育成と指導が必要であると思われる。
100. <山梨県 型枠大工 >  
 建築資材の価格高騰分の転嫁が進まず、赤字工事が発生している。収益状況の悪化から賃上げができないため、人材を募集しても応募がなく、人手不足により受注を断る事態が発生している。
101. <滋賀県 総合 >  
 主として民間工事の建築分野では、原材料の高騰で資材製造工場が休止（遅延）し、資材が入荷されない（遅れている）状態で納期も厳しくなっており、民間の新規発注工事も減少している。
102. <長崎県 建設 >  
 建設資材価格が高止まりの中、地元企業に就職先を求める少ない若手従業員を採用するため給与引き上げ等の処遇改善を実施。多くの企業が人材を取り合っている状況であり、更に経営を圧迫している。

## 運輸業

103. <茨城県 一般貨物自動車 >  
 輸送運賃を値上げして頂いたが、まだ十分な運賃水準とは言えない。人手確保の為、人件費も上がっており燃料価格も高値で推移している等、経費も上昇しており、依然収益は厳しい状況にある。
104. <京都府 道路旅客 >  
 タクシー各事業者は、乗務員不足により稼働率が低迷する中、出勤した乗務員はそこそこの売上となっているため、一人でも多くの乗務員採用に向けての動きが活発化している。

105. < 奈良県 貨物運送 >  
 コロナ前の状況に街はにぎわいを取り戻しつつあるが、物流は停滞しており、ドライバーの確保や昇給への配慮、燃料の高止まりも相まって収益は減少。資金繰りは厳しい状況になっている。
106. < 山梨県 道路旅客 >  
 運賃の改定により長距離夜間の売上げが好調で前年同月と比べ40%増加した。人手不足のためタクシーの稼働効率が悪化していることが課題である。
107. < 熊本県 一般貨物自動車 >  
 4月は荷動きが悪かった。4月からの値上の影響かと思われる。2024年問題を控え増員と値上交渉を進めているが、募集人員の1/3程度の応募しかなく増員に苦戦している。
108. < 栃木県 貨物自動車 >  
 新型コロナ感染状況が落ち着きつつあり、工場の生産増による輸送量の好転が見られる。収益状況も、輸送コスト増に対し、荷主側への価格交渉・転嫁による適正価格の收受増加が好転に繋がってきている。

### その他の非製造業

109. < 新潟県 砂利採取 >  
 令和5年4月度の骨材生産量は、前年同月比で82.3%、1月から4月までの前年累計比で85.6%である。年度末からの公共事業・設備投資等が芳しくない状況が続いている。
110. < 山梨県 老人福祉・介護 >  
 高齢者の容態により仕事量の増減があるため、新規利用者を獲得していかなければならないが、人手不足により依頼を断らざるを得ない状況が続いている。
111. < 神奈川県 不動産 >  
 繁忙期も一段落ということで、昨年同時期とほぼ変わらぬ状況に落ち着く。やはり繁忙期以外は人の流れが少なく厳しい状況である。自己破産も増えている。
112. < 宮城県 不動産 >  
 不動産に関わる様々な資材や人件費の高騰が続いており、また、材料卸業者からの値上げ要請に対応するため価格転嫁をエンドユーザーに持ちかけるも、度重なる値上げに応じてもらえるか懸念される。
113. < 岡山県 信用組合 >  
 コロナ融資の利息支払い、元金の返済が本格化することから、売上等の業況回復はみられるものの、資金繰りの逼迫が予測される。引き続き資金繰り支援強化と本業支援の両輪で支援体制を構築していく。
114. < 兵庫県 社会福祉・介護 >  
 新型コロナの感染症法上の位置づけが「5類」に移行されたが、福祉業界では感染対策については引き続き実施する予定であり、しばらくは感染状況を見ながら、対策を検討していくことになると思われる。